

# 職人加工を駆使し極低を極め マグナムフェイスアップ

超絶な低さにズッポリ収まる24インチが強烈なインパクトだが、マグナムにセダンモデルってあったっけ？ そんなモデルは存在するワケもなく、300Cをベースにマグナムフェイスを移植するという、ありそうで無かった革新モデルだ！

CUSTOM PRODUCE  
EXCARS

<http://excars-st.com>

■撮影/高原義典 ■OWNER/石井恒希さん

EXTREME  
AMERICAN

CHRYSLER 300C SRT-8

## 低さを追求するために全身加工が施される

ワインレッドのボディが、日が傾きつつある日射しを受けて、なんともエロティックな濃淡を見せるマグナム...ではなく、06年型300C・SRT8をベースにマグナムフェイスアップを行なったモデルだ。300Cから300Cへ、ベーシックグレードからSRTグレードなどのフェイスアップはよくあるスタイルだが、このチェンジは費用面なども考えるとかなり思い切ったフェイスアップ。ボンネットも移植する必要があるので、社外のダクト付きボンネットを取り入れている。

これだけでもジックリと眺められるスタイリングなのだが見ての通りこの低さである。あたりまえだがエアサスにPGフラグジュアリーダンパーを搭載しただけではここまで落ちることなく、フロントフレームのスライス（補強済み）やインナー加工、アーム類の逃げ加工に始まり、リアインナーに至ってはまるっきり作り替えてこの低さを手にすることになる。給油口もトランクルームに移植するなど、フォーシアートの24インチをインナーに収めるために邪魔なモノはトコトン移植させている。「誰よりも低く」を目指し、このまま徹底的にやるオーナーの石井さんの熱意も凄いが、再現したエグなスケールの細かい技術も見事と言いきれない。



300C SRT8のフェイスをマグナムにしてしまう、この思い切りの良さは見事。ボンネットはダクト付きの社外品へ交換がされている。



ホイールはフォーシアートの24インチを装着。着地時にここまで収めるように見せるため、リアクォーターアームは8cm延長して下げられている。フェューエルリッドはスモーキングされ、トランクルーム内に給油口を移設。



パネル類はペイントされ、Aピラーやフロントドアにはツイーターやミッドスピーカーをインストール。トランクにはウーハーが2基鎮座する。

ワインレッドにオールペンされ、光の当たり具合によってボディ表面の濃淡が大きく変わる。マフラーはボラーを装着。テールはブラックアウトされている。

